

# 音楽

音楽、特にクラシック音楽の鑑賞に限りなれ喜びを感じる教授は、慶応の宮沢浩一教授、ピアリストの宮沢明子さんを美妹にもつ本格派である。

その他二橋大の青木外志夫教授、「学者商売」の名言を吐

僕にとつて、音楽は趣味というより、通り越してプロですね。

好きな音楽家について、おもしろい音楽をうまへ演奏すればみんな好きですが、強いていえば、ドイツ音楽で、ベートーベンとかバッハです。現代音楽の柱ができたの

## 音楽家

はあの頃だし、その前は単純すぎてつまらない。最近も、おもしろいなと、ブラームスあたりから、リヒャルト＝シュトラウスの頃までが、まじめに作っていたんじゃないのかな。

僕がピアノを始めたのは、十歳のときでしたが、親が音楽家になったら困るといって、なかなか先生につけてくれなかったんですよ。ですから、ずっと自己流で弾いていました。中学校に入った頃から、自分で本を買ってきて、対位法とか、楽典とか、作曲理論を勉強していました。そして、早稲田の理工学部に入ったから、もともと音楽家にはならないだろうというところ、トウモロコシ先生につけてくれたんです。ピアノは、フランスで仕込まれた先生について、作曲は、諸井三郎先生に師事するようになりまして、ずいぶん可愛がられました。

特に好きなLPをあげたらケンプのベートーベン、コレットのショパン、フィッシャーのバッハですね。この三人が二十世紀前半のピアノのリーダーですよ。テクニックもい

いた同じ一橋大の野々村一雄教授、中央大の石丸静雄教授、学習院大の大野晋教授、お茶の水大の太田次郎教授、東京女子大の伊藤善次教授、東京大の稲積彦二教授と秋山光和教授、青山学院大の坂井正廣教授、千葉大の鶴戸口英善教授などがいる。

西洋音楽でも特に宗教音楽に傾倒する教授には、明治学院大

いですがね。ケンプなんか四十年代の頃、特にいいですね。本当にベートーベンが弾いてくるような弾き方をしますからね。

僕がオーディオの勉強を始めたのは、それなんです。レコードをいい音で聴いてピアノの勉強にしたり、作曲の手法にしようと思ったからです。そこで、まず、レコードをわけて、スコアを見て弾いてみるんです。聴えない音があると、その音をハッキリ出してやれと思って、蓄音

の磯部浩一教授、国際基督教大の一瀬智司教授、専修大の鶴岡信成教授、日大医学部の上野祐教授などがいる。

楽器の演奏の名人として、中央大の安藤淳平教授はフルート、チェロが得意、東京外語大の中嶋雄雄教授は、バイオリンの名人。また、明治学院大のチャペルでオルガンを奏でる團部澄夫教授などがいる。東大教養学部の杉山好教授は、パイプオルガンの運営委員長。

をまわって弾くんですよ。そうすると、符の出し方やアクセントとかみんなわかってくるんです。とんとん細かい音が聴いていこうよというようになって、僕の蓄音機がすごくいいのができちゃいまして、市販で買えないようないい音がするんです。すてきな「おまえの蓄音機がいいからレコードコンサートをしてくれ」ってみんなに言われて、大学まで持ってきて、やりましたね。その蓄音機も諸井先生を呼ぶ前に、戦争で焼けちゃいましたけど。今は真空管アンプのオーディオを使っています。ほんとにデマに近い音ができます。値段にしたら、百万円じゃできないかも知れないな。全部自分で設計して、弟子がもってきてくれたスピーカーとか蓄音機とか、いいものをフランスよく組み合わせて作りました。メーカーでは、つくりません。ああいう手の込んだものは。

僕としては、だいたい音楽工学を卒業したから、生きていくうちに、今度は少し作曲家として作品を残しておこうと思いましたが、書き始めたんですが、まだ、だれも弾いてくれないんです。難しい。すてきで弾けないら

教授 じ。「ピアノンナタ第二番、口短調作品第三番」これは二、三年前の作品で、他に二曲ほど作ったんですけど、あまりにもハタタンで、スランプなんです。やっぱりベートーベンとかバッハはすごいですね。表に巧妙に音を築いてます。変化が激

早稲田大学

伊藤 毅 作曲

機を直すわけです。それで、聴いていこうよという音のうまさをずっと聴いて、楽器の組み合わせや音を覚えて、ピアノのパートは、そのまま弾き方

## 技術と精神内容が大切

### 音楽を深く知るために

